

雪氷写真館⑧ 劔岳の三ノ窓雪渓（氷河）でのアイスレーダー観測/
Ice radar soundings in the Sannomado perennial snow patch
(active glacier) in Mt. Tsurugi, the northern Japanese Alps



写真 1 雪崩のデブリで埋めつくされた 2012 年 5 月末の三ノ窓雪渓。特にハッ峰側（写真左）から流れ込むデブリの量は膨大。



写真 2 ブロック雪崩を避けながらのアイスレーダー観測。

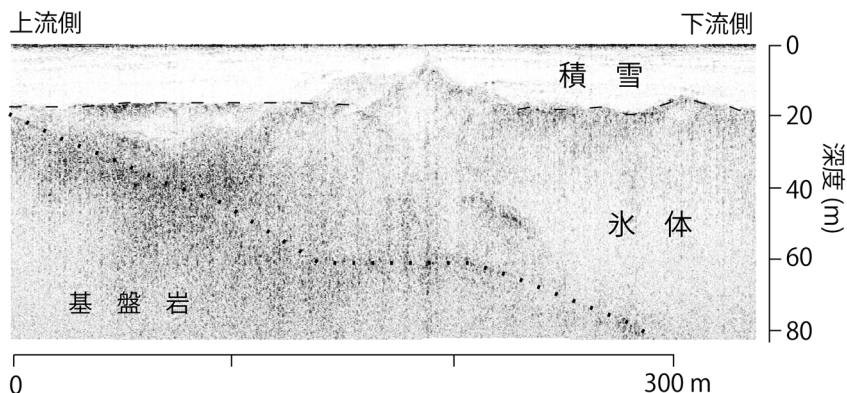


図 1 三ノ窓雪渓上流部のアイスレーダー断面（縦断面）．2012 年 5 月 31 日観測．深度は 1.6 倍に強調してある．

劔岳の三ノ窓雪渓（氷河）でのアイスレーダー観測

劔岳の三ノ窓雪渓で（写真 1），2012 年 5 月末にアイスレーダーを使って，積雪とその下にある氷体の厚さを観測した（写真 2）．三ノ窓雪渓周辺は，国内有数の豪雪地であり，しかも雪渓はハッ峰と三ノ窓尾根という急峻な尾根に挟まれているため，積雪期に「雪崩の巣」と化す．雪渓に辿り着くと，全面が雪崩のデブリに厚く覆われていた（写真 1）．とりわけ，より比高の大きいハッ峰側から，凄まじい量のデブリが流れ込んでいた．この雪崩による膨大な雪の集積が，氷河の形成に大きく寄与しているのは確実である．

アイスレーダーのデータをみると，積雪の厚さは 20～25 m に達していることが分かった（図 1）．この積雪の厚さは，2011 年 6 月のそれと同程度であった（福井・飯田，2012）．5 月末の時点でこれほどの積雪が残っている場所は，国内でも稀である．

積雪の下の氷体は，2011 年 6 月の観測で厚さ 40 m を超えることが分かっていた（福井・飯田，2012）．2012 年は，より深くまで探査出来るように，アイスレーダーのセッティングを変更して観測を行った．その結果，上流部の氷体の厚さは，60 m に達していることが分かった（図 1）．この 60 m という厚さは，例えばネパール・ヒマラヤ，ランタン谷のヤラ氷河の涵養域の氷厚に匹敵する．三ノ窓雪渓は，今のところ，国内でもっとも厚い氷河といえるだろう．

文献

福井幸太郎・飯田 肇，2012：飛騨山脈，立山・劔山城の 3 つの多年性雪渓の氷厚と流動—日本に現存する氷河の可能性について—．雪氷，**74**，213-222．

福井幸太郎・飯田 肇（立山カルデラ砂防博物館）